



よろず支援拠点

【ご相談】
中小企業・小規模
事業者のための **無料の経営相談所**

三重県産業支援センターよろず支援拠点

☎059-228-3326



注目の相談事例 株式会社港屋珈琲 (鈴鹿市)

業界初の飲食店向け 「自動シフトプラン作成システム」を開発

創業14年の直営5店舗・FC6店舗を運営する郊外型大型喫茶店。代表者が居酒屋勤務で得た高い飲食店オペレーション構築力を生かし事業拡大。コロナ禍を経験し、一層の労働生産性改善による利益率向上が最重要課題と認識して、IT活用による生産性向上についてよろず支援拠点に相談があった。

株式会社港屋珈琲
鈴鹿市西条5-45
TEL 059-392-7258
<https://www.minatoya-coffee.net/>



相談内容 株式会社港屋珈琲 取締役 平賀 直実さん

生産性向上につながるIT化に向けた 適切な分析と提案をしていただきました

喫茶店運営・フランチャイズチェーン本部・菓子製造販売業と3つの事業を展開しており、今後FC事業を拡販するうえで安全性・生産性を上げ、利益を確保するためにIT化を進める必要があると考えたものの、具体的な方向性に苦慮していました。そこで、よろず支援拠点のコーディネーターに相談したところ、「業務シフト」に関わる業務に時間を要しているという課題があることが各店長へのヒアリング等により判明しました。その結果、店の売上や経費を左右する適正人員等の業務シフトの精度や不十分な業務シフトが、顧客や離職リスクにも影響することが分かりました。そこで、「自動シフトシステム」開発による労働生産性向上の提案と、ものづくり補助金の活用のサポートをいただき、開発にこぎ着け、直営5店舗に導入できたことを感謝しています。



支援内容

コーディネーター 中野 昭彦

IT活用による 「自動シフトシステム」の 開発を提案



業務効率を低下させているボトルネックを明確化し、完全自動化で業務シフトプランが作成できる「自動シフトシステム」開発による労働生産性向上を提案しました。また、「自動シフトシステム」開発と同時に「自動シフトシステムと連携し損益管理がリアルタイムで可能になる非接触型自動釣銭機」導入もアドバイスし、コロナ禍での非接触会計推進と会計時間短縮を同時に実施するよう提案しました。また、「自動生成シフトシステム」は、知財総合支援窓口と連携しビジネスモデル特許として申請しています。

注目の相談事例 夢を手づくりする企業組合 (津市)

売れる店舗運営で売上20%アップ、 規約変更で固定費負担軽減

平成25年4月に設立。県内の作家さんのオリジナルハンドメイド作品(小物、雑貨、衣料、アクセサリなど)を、委託をうけ販売している。併設するイートインカフェでは店主オリジナル珈琲なども提供している。毎週木曜・金曜・土曜・日曜の営業。工夫を凝らしたイベントに定評。近年では店舗レイアウト・運営もリニューアルし、販売を委託する作家さんも増加している。

夢を手づくりする企業組合
津市八町二丁目5番4号
TEL 059-261-1266
<https://yumewo.or.jp>



相談内容 夢を手づくりする企業組合 代表理事 長岡 正樹さん

売上を拡大するための店舗運営の改善方法に悩んで、 相談に訪れました

「ハンドメイドの作家さんと地域の人に喜んでもらえる場所を提供する」をコンセプトに令和3年4月に松阪市内に店舗をオープンしました。作家さんからの委託販売手数料が主な収入で、収益向上を目指してイートインカフェやオリジナル商品の珈琲を開発しようとしたが、店舗運営は初めてでノウハウがない中、どのように運営すればよいか悩んでいたところ、よろず支援拠点の相談に至りました。

コーディネーターから、店舗レイアウト・お店のファンづくり・作家さんとの委託契約規約作成のアドバイスを受け、売上拡大と家賃負担の軽減に取り組みました。その結果、日々感じていたモヤモヤが明確になり、解決すべき点や解決方法が分かり、良い方向に進んでいると感じています。



支援内容 コーディネーター 三輪 時弘

ブースの有料化と店舗レイアウト・ 看板表示の変更と木曜「珈琲の日」の営業開始

店舗レイアウトについて、通路幅を広くし、回遊性を高め、バックヤードを縮小することで売り場面積の増加を提案するとともに、路面に設置された看板も分かりやすい表示にし、視認性を高めました。また、店長がこだわって商品開発した珈琲でお店のファンづくりを考え、木曜に「珈琲の日」として営業し、作家さんと呼んで、珈琲を飲みながらハンドメイドの体験会を開催するなど作家さんとお客さんが交流できる場を提案しました。

さらに、ブース利用料の有料化や委託契約規約の改定により、家賃負担の軽減も可能となりました。相談者は最初何から手を付けたらよいか思案されていたが、段階的に提案することで、提案を真摯に受け止め、ひとつずつ実践していただきました。

